滋賀県教育委員会
「読み解く力」向上フォーラム

2019. 05. 09
（於：滋賀県庁　大会議室）

「読み解く力」と21世紀の学び

藤 江 康 彦
（東京大学大学院教育学研究科）

２１世紀の教育に求められること

生涯学び続けるための基盤を創る

学問の「見方」「考え方」を人生に役だてる

仕事で直面する課題を、社会科学的な見方でとらえる
日々の家庭生活の作業を、自然科学的な見方でとらえる
自らの人生設計を、数量的な見方でとらえる…

「学ぶとはどういうことか」を学ぶ

人生は学習の連続・・・

新たなテクノロジーの普及
新たな生存の危機の発生

⇦

学ぶことができなければ、生きていくこと、豊かな人生を送ることはできない

「学ぶこと」に前向きな態度を身につける

「学ぶ」ことに正の価値づけができるような学習経験を用意

２１世紀の学びと「読み解く力」

キーワード：主体性

目的・動機に基づく
他者に影響を与える
対話的である

従来「主体性」は、、、
・個人に備わった能力
・能動的である状態
と、とらえられてきた

ただし、、、

「主体性」は「間」にある
　子どもーヒト（教師、子ども）
　　ーモノ（教科書、教材、道具）
　　ーコト（活動、授業、教科、遊び）

モノにも主体性がある

学問の主体性：教科の本質、見方・考え方→制約

主体性同士がぶつかるからこそ
　「読み解く力」が必要：うまいぶつかり方を学ぶ

「読み解く力」を育むうえでの課題

- 「主に文章や図、グラフから読み解き理解する力」
  - これまでに研究や実践の蓄積がある
  - 教科の授業づくりにおいて無理なく取り組むことができる

- 「主に他者とのやりとりから読み解き理解する力」
  - ことばやしぐさ、表情は身体的かつ即興的
    - （今の）記憶を頼るしかない
  - 他者の「思い」や「意図」を理解することは可能か
    - 解釈（ときに思い込み）の妥当性をどれだけ高めるか
    - 子どもが子どもを「見取る」ことをどう授業に取り入れるか

他者とのやりとりから読み解き理解する

ことばに対する敏感さ

不確実性

ことば（話しことば）
しぐさ・表情
（非言語的情報）

身体性　　即興性

受容できる

気づく・感じ取る

経験に基づく

思い
意図

解釈による

自分と向き合う

それが気になる自分
それに共感する（しない）自分

「読み解く力」を育む／引き出すために

環境をつくる

環境：カリキュラム（メディア）、空間、組織

環境のなかで、子どもがどう動くか（評価）
教師が環境をどう創るか

「読み解く」経験

ことばを看取る視点

「ことばを生み出す」経験

ことばを生み出すツール

を豊かに

子どもの「ことば」が生まれるとき

感動、こだわり、思いの表出

気持ちが揺さぶられるとき（感動、納得、違和感、・・・）

そのまま表出

こだわりとして現れる

つぶやき

ふざけ

主体的学びへ

学習への動機づけ
自分事としての課題解決
生活経験とのつながり

子どもの「ことば」が生まれるとき

対象を正確に伝えようとする

聴き手を意識

とらえたこと・気持ちを・・・

他者と共有したい
他者に納得してほしい

具体的なもの・ひと・ことを**誰にでもわかる**ように再現

メタ認知・批判的思考・・・

他者との対比

対話的学びへ

子どもの「ことば」が生まれるとき

子どもの思考過程そのものの
あらわれ

未整理

自分の考え
をかたちづくる
自分の考えを試す、
吟味する
話しながら考えを
修正する

教材や自己、
他者との
対話から
生まれる
半ば独り言

深い学びへ

たどたどしさ

「読み解く力」で授業はどう変わる？

- 子どもが、ヒト・モノ・コトと向き合う瞬間をより丁寧にとらえるようになる
  - そのための視点、道具の研究
- 「聴く」こと「観る」ことに価値をおく静謐な学習環境づくりがうながされる
  - 引き出される、見いだされる「聞き取る力」
- 互いのことばやしぐさに敏感になる
  - 安心して表現することができる環境づくり

研究推進に向けて

- 「読み解く力」はあらゆる教科、あらゆる活動の中で育む（引き出す）ことを試みる
  - 「学ぶ力」としての「読み解く力」であればなおさら
    - 教科横断的な力としての「読み解く力」

- 授業は単元単位で考える
  - 子どもと教材との出合いを丁寧に
  - 本質的な問いは、単元を通して追究される
  - 思考の深まり（高まり）をとらえるならなおさら

研究推進に向けて

- 「読み解く力」は授業において読み解いている子どもの姿を見取っていくことでとらえる
  - 評価は形成的評価として行う
  - カルテ、自己評価、日記など：質的にとらえるしかない
  - 評価と授業（指導だけではなく）を一体化する

- 「読み解く力」は義務教育９年間で考える
  - 認知や社会性の発達、経験の積み重ねが支える
  - 小中連携を活かす
  - 中学校区単位でのプロジェクトとして取り組むことも
  - 教材と繰り返し出合うことで読み取りの正確さが増す

２１世紀の授業に求められること

「子どもが学び続ける」授業

教師の指導が不要なわけではない

子どもにとっての学習環境として授業をとらえる

子どもの主体性を保障：
　　環境デザインを自ら行う
学習の対話性を保障：
　　環境との相互作用を行う

環境とは、
教室の・・・
文化的環境（メディア、教材、コミュニケーション）
物理的環境（机、いす、空間）
社会的環境（友だち、教師）

授業づくりの観点

観察→解釈→再デザイン

子どもは、どういった環境にどういった価値づけをするか

自分との意味のある関係をみいだす

子どもの実践に、どういった環境がどういった制約を与えるか

制約があるから学習が成立する（教科が求める思考方法、認知的葛藤）

子どもは、制約の意味や価値にどのように気づくか

制約の活用、創出

環境に対する能動的働きかけ

子どもを学習の実践者としてとらえることを授業デザインの前提とする

子どもが変わる／教師が変わる

- 子どもに対する「見方・考え方」を変える
  - ２１世紀の教育において最も重要なこと
    - 子どもは「学習実践者」
    - 教師の子ども観（学習者観）が変わらなければ「主体的・対話的で深い学び」は実現しない
    - 子どもをみとる視点の拡張

- 教師が学び続ける環境を創出する
  - 本事業では「読み解く力」をつけることを目的として
    - 授業研究
    - 単元研究　を意識的に行うことを目指す
    - 教材研究

ご清聴ありがとうございました